

赤馬が関舟中の作（伊形靈雨）

長風 浪を 破つて 一帆 還る

碧海 遙かに 回る 赤馬が関

三十 六灘 行くゆく 尽きんと 欲す

天辺 始めて 見る 鎮西の 山

長風破浪一帆還 碧海遙回赤馬關
三十六灘行欲盡 天邊始見鎮西山

解説 故郷の熊本に帰ろうとして、船で周防灘から赤馬が関に回り、はるかに九州の山を望み、なつかしさのあまり作ったもの。

語釈 ※赤馬関Ⅱ今の山口県の下関のこと。馬関ともいう。

※長風Ⅱ遠くから吹いて来る風のこと。※一帆Ⅱ一隻の舟。

※碧海Ⅱ青海。※三十六灘：三十六は実数ではなく、数の多い

形容。※鎮西Ⅱ九州。

通釈 遠いかなたから吹いてくる風に送られ、我が乗る帆掛け船は波を蹴たてて周防灘から赤馬が関に向かい、青海原は岬や島影にさえぎられながら回り続いている。三十六カ所の急流の難所も乗り越え、やっと波の平かなる処に出ようとするとき、初めて雲の彼方に九州の山が見えて来た。ああ、なつかしい我が故郷が漸く近づいてきたのだ。